ゴロちゃんの平凡な世界

作・絵　玉置 陽菜

story・art　Hina Tamaki

JAPN 1231 Tadoku・Spring 2024

LEVEL 4

ゴロちゃんは毎日、いつもいっしょの生活を送っています。
いつもの小鳥さんのさえずりで起きて
いつものはちみつパンを食べて、
通学路でにっこりと挨拶してくれるウサギのおじいさんを、いつものように通り過ぎ、
いつも同じ人と、同じ教室で授業を受けていました。
（こんな平凡な人生、たいくつだなー）

家へ帰ると、いつもと変わらず、同じようにお洗濯物をしているお母さんの「おかえりなさい」
という言葉を聞き流し、
リスのおじさん作ってくれたクッキーをボリボリと食べながら、
ゴロちゃんはゴロゴロしながら午後を過ごし、
(こんな平凡な人生、たいくつだなー)と思いながら
いつものようにベッドに潜り込み、朝になるまだスヤスヤと
眠りにつきました。

朝になって、日差しを目に感じた
ゴロちゃんは、
毛布を頭に被せて、ゴロゴロ、ゴロゴロ
していました。

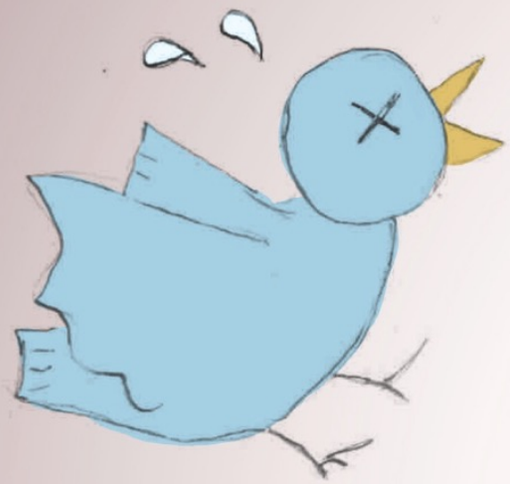
「また平凡な毎日は、たいくつだよー」
と言った、その時です。

「冒険に行くかい？」
今日の朝はいつもの小鳥さんではなく、
見たことない猫のおばあさんが窓に座っていました。

「いつもと違う日を過ごしてみないかい？」

ゴロちゃんはベッドからバサッと飛び起き、
猫のおばあさんの後をついて行くことにしました。

窓の先はゴロちゃんのお家の庭のはずが、いつもの通学路でした。
ゴロちゃんは“冒険”と聞いてワクワク飛び出してきたのに、
猫のおばあさんについて行ったその先は、いつもと変わらない、いつもの通学路でした。
「猫のおばあさん、こんなのいつもといっしょじゃないか！」と言いかけたその時、
ゴロちゃんはウサギのおじさんのお家を見かけました。



いつもにっこりと挨拶してくれるウサギの
おじいさんが小鳥さんに怒鳴っていました。
「毎朝うるさいんだよ！寝かせてくれ！」
ゴロちゃんはショックを受けつつ、
猫のおばあさんについて行きました。

次は学校のはずが、お菓子のお城につきました。
ゴロちゃんは目をキラキラとさせながら
飴でできているお花、
パンでできているベッド、
クッキーでできている壁、
見えるもの全部を食べてみました。

でも、ゴロちゃんは混乱していました。
(あれ？毎日の食パンとリスのおじさんクッキーの方が絶対美味しい)
猫のおばあさんとゴロちゃんはまた歩き始めました。

「ここどこ？」ゴロちゃんは猫のおばあさんにたずねました。

ゴロちゃんたちがついたのは、しょんぼりとした古いおうちの前でした。

「ゴロちゃんのお家だよ、わからないのかい？」

ゴロちゃんは目を大きくしながら家の周りを歩きました。

電気もついてなく、外は雑草だらけ。

中に入ってみると何もかも空っぽでした。

ゴロちゃんのおもちゃ、キッチンのお鍋、リビングにある家族写真、みんななくなっていたのです。

洗濯物の匂いがすると思って外へ出ても、そこには洗濯バサミも残っていませんでした。

「こんな毎日なんていやだ！」ゴロちゃんは泣き叫びました。

「おばあさん、お願いだからいつもの世界に戻して！」

ゴロちゃんはお庭に座り込んで、ギュッと目を閉じました。

朝の小鳥さんにお礼を言っておけばよかった。

ウサギのおじさんに毎日挨拶しておけばよかった。

リスのおじさんのクッキーをもっと大事に食べればよかった。

お母さんのお手伝いをもっとしておけばよかった

ゴロちゃんは後悔でいっぱいでした。

しばらくして、そっと目を開くと、
ゴロちゃんは自分の部屋にいました。
急いでしたくして、
はちみつパンを食べて、
玄関に出ると、
いつものように、「いってらっしゃーい」
と声をかけてくれるお母さんがいました。

今日はいつもとちょっと違って、
「朝ごはんありがとう、いってきます！」と言いました。

（おわり）